

授業コード	55001		
授業科目名	アドバンスト・キャリアデザイン(集中)		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	「仕事ができる“ビジネスマン”の流儀と作法」というサブテーマで授業をおこなっていきます。いよいよ社会人デビューをするにあたってビジネスマンに必要とされる能力である、関係を構築する知恵、自ら考えて判断や決定をする知恵、情報を収集し編集する知恵、自分の将来をイメージ・描ける知恵、あるいはモラルやマナー、ビジネス倫理などといった知識について実践的に学んでいきます。企業や各種団体などとも連携して人間や社会というものを洞察し、多面的な視点による判断力を養成し、生涯にわたる豊かな人間力を育成する基盤づくりを目的とします。		
到達目標	自分なりの自信をもって社会に出て、卒業後3年間は就職先を辞めない人材の育成。		
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション		
準備学習	授業時間帯以外にもチームやグループごとに集まって打ち合わせをしたり、話し合いをしたりすることがあるかもしれません。		
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義への積極的参加・意欲的な参加 2. グループワークにおける仲間への貢献や協力 3. 提出物 4. 出席 <p>※ 以上を総合的に評価します。</p>		
講義構成	企業に入社後3年くらいまでに必要とされるであろう知識・知恵・スキルを実践的に修得していきます。具体的には、「関係を構築する知恵」「情報を収集し編集する知恵」「自ら考えて判断や決定をする知恵」「自分の将来をイメージ・描ける知恵」という4つの知恵の修得を軸とした講義を体験型・参加型というスタイルでおこなっていきます。企業や団体で働くビジネスマンや本学OB・OGなどのジョイント授業などを予定しています。		
教科書	必要に応じてレジュメを配布します。		
参考書・資料	必要に応じて紹介します。		
担当者から一言	就職し、社会に出る“不安”を“ワクワク”に変える講義です。世の中にももしろい仕事などはありません。仕事をおもしろくするのも、つまらなくするのも自分次第なのです。人生は1度きり。その中で仕事をしている時間が圧倒的に長いのはいうまでもないでしょう。どうせ働くなら、楽しく働きませんか。		

授業コード	55C11		
授業科目名	インターンシップ・ボランティア(文)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	事後登録		

講義の内容	企業・団体・地域社会と連携した直接的な社会体験・就業体験により、社会人としての基本的なマナーや、社会で求められる知識や能力について把握する。また、働くことの意味や重要性を理解することで、職業意識や就労意識を形成し、自己の適職及びそれに必要な専門的能力を確認するとともに、責任感をもって自ら考え行動する姿勢を養う。		
到達目標	就労体験により、社会で求められる知識や能力を認識し、職業観・就業意識を培う。		
講義方法	インターンシップ・ボランティア先での就労体験を主とする。		
準備学習	ビジネスマナー講座やオリエンテーション、コンプライアンス研修などで事前にビジネス社会についての常識や予備知識を学ぶ。		
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況等により評価を決定する。		
講義構成	(1)キャリアセンターが実施するガイダンスに出席すること インターンシップ 4月14日(水)または16日(金)		

	<p>12:20～12:50 121講義室 ボランティア 4月13日(火)または15日(木) 12:20～12:50 121講義室</p> <p>(2)インターンシップまたはボランティアを希望する者は、キャリアセンターに登録書の提出が必要。 期限:2010年5月13日(木)15:00</p> <p>(3)キャリアセンターに紹介を希望する場合は、キャリアセンター委員会または受入企業・団体が面接を行い選考する。</p> <p>(4)夏期休暇期間を利用して、60時間以上のインターンシップ・ボランティアに参加すること。</p> <p>(5)活動に関するレポート(様式はキャリアセンターに問い合わせること)を指定期日までにキャリアセンターに提出すること。</p>
教科書	特定の教科書は使用しません。
その他	参加者は、キャリアセンターが実施する事前研修と事後研修に参加することが望ましい。

授業コード	55F11		
授業科目名	キャリアゼミ(文・法)(1クラス)(前)		
担当者名	坂本理郎(サカモト マサオ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		
講義の内容	多様な進路や働き方があることを知り、その中から自分が希望する進路を探り、その実現に向かってどのような準備が必要なのか、大学生活での学びや経験はどのように活かすことができるのかを理解します。		
到達目標	このような進路の探索活動を通して、自分自身について深く理解し、同時に、社会人としてふさわしい基礎力を身につけることを目指します。		
講義方法	単なる知識やスキルの詰め込みではなく、体験を通じた学習を重視するため、学生諸君が主役のグループワークやディスカッションが中心となります。グループでの活動を通して、チームワークやコミュニケーションのスキルを高めることができます。担当の教員とキャリアセンターの職員は、皆さんと一体となって学習できる場づくりと支えあう人間関係づくりを行います。教員と職員は、皆さん方の自己理解および相互理解の促進と、それぞれの目標や計画づくりに対して、熱意を持って支援します。		
準備学習	担当者が適宜指示します。		
成績評価	ゼミ内での活動に対する意欲、プロセス、結果に対して、総合的に評価を行います。		
講義構成	講義の内容は大きく分けて以下の三つの部分からなります。 ①自分自身についての理解 これまでの人生を振り返る、自己評価と他者評価など ②様々な仕事や働き方についての理解 卒業生などの働く人々に対するインタビュー、連携先の企業・団体等に出向いての「ジョブ・シャドウイング」 ③就職活動や社会人として必要なスキルの体験学習 インタビュースキル、模擬面接など		
教科書	特に定めません。		
参考書・資料	担当者が適宜指示します。		

授業コード	55F12		
授業科目名	キャリアゼミ(文・法)(2クラス)(後)		
担当者名	坂本理郎(サカモト マサオ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。
講義の内容	多様な進路や働き方があることを知り、その中から自分が希望する進路を探り、その実現に向かってどのような準備が必要なのか、大学生活での学びや経験はどのように活かすことができるのかを理解します。
到達目標	このような進路の探索活動を通して、自分自身について深く理解し、同時に、社会人としてふさわしい基礎力を身につけることを目指します。
講義方法	単なる知識やスキルの詰め込みではなく、体験を通じた学習を重視するため、学生諸君が主役のグループ・ワークやディスカッションが中心となります。グループでの活動を通して、チームワークやコミュニケーションのスキルを高めることができます。担当の教員とキャリアセンターの職員は、皆さんと一体となって学習できる場づくりと支えあう人間関係づくりを行います。教員と職員は、皆さん方の自己理解および相互理解の促進と、それぞれの目標や計画づくりに対して、熱意を持って支援します。
準備学習	担当者が適宜指示します。
成績評価	ゼミ内での活動に対する意欲、プロセス、結果に対して、総合的に評価を行います。
講義構成	講義の内容は大きく分けて以下の三つの部分からなります。 ①自分自身についての理解 これまでの人生を振り返る、自己評価と他者評価など ②様々な仕事や働き方についての理解 卒業生などの働く人々に対するインタビュー、連携先の企業・団体等に出向いての「ジョブ・シャドウイング」 ③就職活動や社会人として必要なスキルの体験学習 インタビュースキル、模擬面接など
教科書	特に定めません。
参考書・資料	担当者が適宜指示します。

授業コード	19A11		
授業科目名	教育心理 (A)(前)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	教育に関わる発達心理学、学習心理学の知識を習得するとともに、それらを主体的に学校教育に生かすための視点や姿勢を獲得する。前半は、学習に関する心理学理論を学び、それらに基づいた教授法、指導法を理解する。後半は、乳児期、幼児期から青年期にいたるまでの「心の発達」の過程を学びながら、現在の学校教育において問題になりやすい事項に特に焦点を当てて子どもの成長過程を理解する。
到達目標	教育に役立つ心理学的知識を身につける。
講義方法	講義による。
準備学習	授業中に指定する。
成績評価	ミニ・レポートと試験の総合評価。
講義構成	第1回：教育心理を学ぶということ 第2回：学習とは何か。学習心理学の基礎(古典的条件づけと、道具的条件づけ) 第3回：望ましくない行動の除去、望ましい行動の強化。 第4回：正の強化と負の強化。強化スケジュール。 第5回：不安、恐怖の行動療法 第6回：認知的学習 第7回：学習の動機づけ 第8回：学習の過程と練習 第9回：記憶理論の基礎 第10回：記憶のメカニズム 第11回：ライフサイクル(乳児期、幼児期) 第12回：愛着理論 第13回：ライフサイクル(児童期、青年期) 第14回：認知的発達 第15回：まとめ(生徒理解と生徒指導)
教科書	木村忠雄編『教育心理学のエッセンス』八千代出版

授業コード	19A12		
授業科目名	教育心理 (B)(前)		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
講義の内容	「わたし」をつくりあげていくこと、「みんな」に合わせること。学校という場所では、常に、この正反対の方向をもつ力が、せめぎあっている。こうした心の動きについて理解する一助となることを目指して、青年期までの心につわる理論(発達心理学と臨床心理学)について、幅広く講義する。		
到達目標	青年期までを取り扱った臨床心理学、発達心理学の基礎的な理論を理解することができる。 発達障害や子ども虐待の問題について学び、こうした問題への意識を高める。		
講義方法	講義形式で行なう。		
準備学習	講義では、1回につきひとつのテーマを扱いますが、習ったことを常に復習するよう心がけてください。各テーマのつながりを自分なりに見つけていくことで、理解できることの幅は大きく広がります。		
成績評価	毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組めたか判断します。 評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。 6回以上の欠席には、単位を認定しません。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 認知と記憶の発達:乳幼児はどのように世界と出合っていくか 3. 愛着:人と人との絆を成り立たせているもの 4. 自我・自己・人格の発達:「私」の成立 5. 意識と無意識:フロイトの精神分析学 6. 遊び・仲間・秘密:社会性の発達 7. 学習・動機・知能:人の行動を左右するもの 8. 発達障害(1):広汎性発達障害;自閉症とその周辺 9. 発達障害(2):ADHDとLD;発達のアンバランス 10. 不登校 11. 思春期という嵐 12. 子ども虐待 13. 無気力・ひきこもり 14. まとめ 15. 終講試験 		
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。		

授業コード	19A13		
授業科目名	教育心理 (C)(前)		
担当者名	濱田智崇(ハマダ トモタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	子どもが「育つ」「学ぶ」ことについて、子どものこころの発達という視点から考える。現代の教育現場における諸問題について、心理学の切り口から理解するための基礎を学ぶ。		
到達目標	教師として子どもにどのように「教え」「育てて」いくかを考えるために必要となる、基本的な知識や考え方が身につく。		
講義方法	講義形式を主とするが、実習も取り入れる		
準備学習	自らの過去の学校体験と絡めて考えてもらうこともある。あらかじめ思い出しておく授業内容も頭に入りやすく、授業内のミニ・レポートが書きやすくなるかもしれない。		

成績評価	出席および毎回のミニレポート(55%)と期末試験(45%)による総合評価 ミニレポート提出率が60%未満の場合、および期末試験を受験しなかった場合に、成績評価「欠席」とする。
講義構成	1)教育心理とは何か 「教育」「学校」と「心理学」 教育心理学の変遷 2)心理学の諸理論から 生涯発達 乳幼児から保護者まで 学習の過程 能力の発揮と生徒教師関係 こころの発達とは 3)生徒理解のために 児童期・思春期のこころ 教師の役割 ロールプレイ実習 4)子どもの心理的障害 発達障害や知的障害の世界 障害を持つ子どもの発達過程 障害を持つ子どもの学習
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
講義関連事項	心理学の基礎知識
担当者から一言	出席を重視します。原則として毎回、授業の内容に即したミニレポートを課しますので遅刻しないように注意してください。

授業コード	19C11		
授業科目名	教育相談 (A)(後)		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
講義の内容	教育相談として、効果的にスクール・カウンセラーとの連携や、児童・生徒へのサポートを行うために必要なカウンセリングの基礎知識や、学校問題の現状について学習する。		
到達目標	学校現場では日々、様々な問題が起こる。それらの問題に対応する上で、臨床心理学の知見は大きな力となる。本講義の目的は、臨床心理学の基礎を学び、様々な学校問題について考えることで、個性豊かな児童・生徒をサポートするための方法や、教育相談の果たす役割について理解することである。		
講義方法	講義形式で行う。		
準備学習	必要に応じて授業の中で指示する。		
成績評価	出席を重視する。テストやミニ・レポートによる総合評価。		
講義構成	第1回:はじめに 教育相談の役割 第2回:児童・生徒の指導トレーニング ① 理論 第3回:児童・生徒の指導トレーニング② 体験 第4回:カウンセリングの基本理論 ① 心理療法 第5回:カウンセリングの基本理論 ② スキル・トレーニング 第6回:教育相談トレーニング ① 理論 第7回:教育相談トレーニング ② 体験 第8回:スクール・カウンセラーの活用法 第9回:発達障害の種類と特徴 第10回:発達障害を持つ児童・生徒へのサポート 第11回:不登校の現状と対応 第12回:いじめの現状と対応 第13回:非行の現状と対応 第14回:保護者への関わり方 信頼関係とは何か 第15回:学校問題を予防すること 第16回:期末試験		

教科書	必要に応じてプリントを配布します。
参考書・資料	授業中に紹介する。

授業コード	19C12		
授業科目名	教育相談 (B)(後)		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	子どもたちは今どんなことで、どのように悩んでいるのだろうか。教師は学校という場で、子どもたちの悩みにどう関わることができるだろうか。 カウンセリングは、悩む人へのよりよい援助について考える実践の学である。この講義では、カウンセリングおよびその前提となる臨床心理学の知見を学びながら、人が悩むということの意味、現実的にできる援助の方法について考えていく。また、ロールプレイなどの体験学習を通じて、自分について知り、よりよいコミュニケーションについて考える機会としたい。教職を目指さない人も受講できるが、知識だけを受け身的に吸収するのではなく、自ら考え、主体的に関わる姿勢で講義にのぞんで欲しい。
到達目標	・カウンセリングの理論、方法の基礎を理解することができる。 ・さまざまな対人援助法における、カウンセリングの位置づけを理解することができる。 ・「悩む」「相談する／される」という場において、慌てずじっくりと考える力を身につけ、教育現場でのさまざまな問題に対応できる力を身につける。
講義方法	講義形式で行なう。
準備学習	・各自で授業で学んだことをふりかえり、関連づけながら、理解を深めていってください。 ・学んだことを鵜呑みにするのではなく、自分というフィルターを通して、着実に取り入れていってください。
成績評価	毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組めたか判断します。 評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。 6回以上の欠席には、単位を認定しません。
講義構成	1. イントロダクション 2. 実習 (1) 3. 「悩む」ということ 4. コミュニケーションすること 5. 実習 (2) 6. カウンセリングとは(1) 7. カウンセリングとは(2) 8. 傾聴の技法 9. よりよく聴くために 10. カウンセリングの実際 11. 実習 (3) 12. ストレスとつきあう 13. トラウマとPTSD 14. まとめ 15. 終講試験
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。

授業コード	19C13		
授業科目名	教育相談 (C)(後)		
担当者名	濱田智崇(ハマダ トモタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	子どものころを理解し、適切なサポートを行う教育相談の理論と方法を身につける。そのために、カウンセリングの基礎を学ぶとともに、教師としての自分のあり方についても各自が考察を深める。
到達目標	「もの」ではない「ひと」とどのように接していくか考えることができるようになる。そして「ひと」である自分と向き合うことができるようになる。
講義方法	講義、1人で行う実習、小集団による実習を適宜組み合わせる
準備学習	子どもについて関心を持っておくこと、普段の自分の人間関係に対して少し意識を向けてみるができること望ましい。
成績評価	出席・実習への参加態度・授業時に提出するミニレポート(60%)と期末試験(40%)による総合評価 ミニレポート提出率が60%未満の場合、および期末試験を受験しなかった場合に、成績評価「欠席」とする。
講義構成	1)教育相談とは？ 教師がカウンセリングを学ぶ必要がある理由 2)カウンセリングとは？ カウンセリングと「普通の会話」の違い 教師のカウンセリング・マインド 3)相談を受ける・話を聴くとは？ 育てること・待つこと 教師が自分を知っておく必要 4)カウンセリングの「技法」とは？ ロールプレイ・応答練習 5)教師の役割としての相談 学級運営と「個」 保護者との関わり ストレスと教師自身のメンタルケア 6)スクールカウンセリングと教師 学校教育現場での役割・連携
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
講義関連事項	臨床心理学の基礎知識
担当者から一言	講義の他、さまざまな実習を取り入れ、体験的に学んでもらえるようにします。実習に参加しないとミニレポートの提出もできず、出席とは見なせません。ペアやグループでの実習もありますので、他の受講者の迷惑にならないよう、遅刻はできる限り避けてください。

授業コード	19001		
授業科目名	ギリシア語		
担当者名	茶谷直人(チャタニ ナオト)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
講義の内容	古典ギリシア語の初級文法を、当時の人々の文章を例文にしながら学んで行く。古典ギリシア語・文化は、ヨーロッパ言語・文化の一大源流であると同時に、単なる遺物ではなく今もなお「ヨーロッパ的なもの」を形作る基盤であり続けている。よって古典ギリシア語を学ぶことは、古代ギリシアの哲学・文学・歴史・社会・芸術を学ぶ者にとって必要であるというだけでなく、何であれ西洋に関わる事柄を専攻する学生諸君にとって、自らの専攻領域を学ぶ上で何かしらフィードバックできる場所があるであろう。		
到達目標	古典ギリシア語の基礎文法習得を基本としつつ、上で記した、古典ギリシア語に触れることの意義を、受講生それぞれに身をもって体感してもらうことをめざす。		
講義方法	原則的に教科書に沿って授業を進める。ただし、あくまで要点を絞り、かつ受講者が理解しやすいように可能な限りパラフレーズしながら内容説明を行う。		
準備学習	教科書収録の練習問題を、適宜自宅学習として課す。		
成績評価	出席、課題への取り組みの状況により評価する。		
講義構成	1回の授業につき教科書を1～2課進める。前期は、アルファベットから始めて、古典ギリシア語の構文上の基本的特徴、名詞・形容詞の語形変化、動詞の基本的変化などを学ぶ。後期は前期に引き続き、形容詞の語形変化、動詞の様々な変化などを学ぶ。		

	なお、進行具合に応じて、古典の実際の文献に触れる機会も持たたい。
教科書	水谷智洋『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）
担当者から一言	古代ギリシアの文化や思想に関心を持つ方はもちろんのこと、ドイツ語、フランス語、英語などに語学的関心を持つ方、なんであれ知的好奇心の旺盛な方、この授業に「物珍しさ」を感じる方など、様々な関心・動機からの受講を歓迎します。

授業コード	19004		
授業科目名	生涯学習論（後）		
担当者名	朝日素明(アサヒ モトアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	特に設けませんが、質問や相談等は毎授業時もしくはメールで応じる予定です。		

講義の内容	生涯学習の概念には包括的な内容を含み、これを捉えるには何らかの体系的な柱立てが必要です。さしあたり、次のような柱立てで講義を組み立てていきます。1. 理念や出自、2. 学校教育との関連、3. 社会教育との関連、4. 行政による生涯学習の推進、5. 生涯学習関連の職員、6. 生涯学習関連の施設、7. 生涯学習の理論。
到達目標	①生涯学習の実践者および支援者としての高い意識と自覚をもち、行動できる。 ②多様な生涯学習を体系的、理論的に捉える視点を具体的に挙げられる。 ③生涯学習を支える諸条件について、具体的にその働きや仕組みを説明できる。 ④生涯学習に関する理論、生涯学習の方法について、生涯学習の理念に関連づけて説明できる。
講義方法	講義のねらいや内容にしたがい、講述を中心に進めます。講述に際しては、パワーポイントのスライド資料ならびにその他関連する資料のプリントを配布します。また開講後、早い段階でレポートを課し、ワークショップ、プレゼンテーション、ディスカッションの実践もとり入れていきます。
準備学習	授業時に示す参考文献に親しんでいきましょう。その他、必要な学習はその都度、指示します。
成績評価	定期試験(50%)、レポート(40%)、授業への積極的参加度(10%)による総合評価とします。レポートは早い段階で課し、内容によって再提出を求めます。
講義構成	初回 オリエンテーション 第2回～第3回 生涯学習の出自と理念 第4回～第6回 学校教育と生涯学習 第7回～第8回 社会教育と生涯学習 第9回～第10回 国・地方の社会教育行政 第11回～第12回 生涯学習に関連する職員・施設 第13回 生涯学習の理論 第14回～ 補足とまとめ
教科書	特に指定しません。授業時にプリントを配布するとともに参考文献を示します。
参考書・資料	岩永雅也(2002)『生涯学習論—生涯学習社会の展望』放送大学教育振興会 日本社会教育学会編(2004)『現代教育改革と社会教育』(講座現代社会教育の理論1)東洋館出版社 日本社会教育学会編(2004)『現代的人権と社会教育の価値』(講座現代社会教育の理論2)東洋館出版社 日本社会教育学会編(2004)『成人の学習と生涯学習の組織化』(講座現代社会教育の理論3)東洋館出版社 鈴木敏正(2004)『生涯学習の教育学—学習ネットワークから』北樹出版 末本誠・松田武雄編(2004)『生涯学習と地域社会教育』春風社 小宮山博仁・立田慶裕編(2004)『人生を変える生涯学習の力』新評論
講義関連事項	身近な生涯学習施設を是非訪問してみてください。 身の回りのありとあらゆる事柄、生活全般に対する感受性を高めてください。

担当者から一言	生涯学習の基本は、各人が「よりよく生きよう」とする主体性や自発性によっています。したがって本講義を通して、資格取得はもちろんのこと、自らの学び・育ちを見つめ直し、「よりよく生きる」ために、自分に対してできること、他人や社会に対してできることを考える機会にしてほしいと思います。
---------	--

授業コード	55A11
-------	-------

授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン (文)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)、中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限

講義の内容	文学部で学ぶ「専門教育」とおして、皆さんのこれから、すなわち「大学生活4年間の過ごし方」や卒業後の「生き方」「働き方」を考えてゆく講義です。講義は「講義型授業」と「体験型・参加型授業」でおこないます。「講義型授業」では日本語日本文学科・英語英米文学科・社会学科・人間科学科・歴史文化学科の各専門にキャリアというテーマを絡めて「生き方」や「働き方」というものについて考えてゆきます。「体験型・参加型授業」では、大学生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“3つの知恵”(「人と人との関係を築く知恵」「情報を収集して活用する知恵」「自ら考えて判断や決定をする知恵」と名づけ人間関係を軸としたトレーニングを講義の中でおこなっていきます。「専門教育」と「キャリア教育」を融合した講義です。
到達目標	これからスタートする大学生活をいかに充実させ、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。“ありたい自分”を考えてゆく講義です。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)と不定期的に実施するレポート。以上をトータルして評価します。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ ～ベーシック・キャリアデザインとは～ (講師:森・大津・中山) 2. 人と人との関係を築く知恵Ⅰ (担当:中山) 3. 人と人との関係を築く知恵Ⅱ (担当:中山) 4. 情報を収集して活用する知恵Ⅰ (担当:中山) 5. 情報を収集して活用する知恵Ⅱ (担当:中山) 6. 自ら考えて判断や決定をする知恵Ⅰ (担当:中山) 7. 自ら考えて判断や決定をする知恵Ⅱ (担当:中山) 8. 高石「ライフサイクルとこころの成長課題」(学生相談室) 9. 鳴海「地図をつくった人々」(歴史文化学科) 10. 西「古典に学ぶ『責任感』と『コミュニケーション』」(人間科学科) 11. 阿部「新卒一括採用を考える - 安心感と公正さが失われた社会を生きる」(社会学科) 12. 秋元「お金と仕事とキャリアの話」(英語英米文学科) 13. 小谷「文学作品と職業。職業とコミュニケーション能力。」(日本語日本文学科) 14. エピローグ ～ベーシック・キャリアデザインのまとめ～ (講師:森・大津・中山)
教科書	必要に応じて「レジュメ」を配付します。
担当者から一言	文学部は就職に不利ではありません。今は「何を勉強してきたか」よりも「どのように勉強してきたか」が問われる時代です。進路や就職に不安をもっている人。自分の専門と自分の将来とつながりを見つけたい人。自分のことをもっと深く知りたい人。新しく友達をつくりたいと思っている人。大学生活の4年間を充実させたいと思っている人。大歓迎です。